

生命科学部

【2024年度大学評価総評】

評価基準の各項目について、バランスの取れた目標と指標の設定を行っており、適切な学部運営が進められていると見受けられる。

特に、教育課程・教育方法について、2023年度に開始されたリメディアル科目の開講があり、KLACや他学部執行部との調整を経て、履修手順の覚書の制定など、具体的な仕組みを整備して、実施に至っていることが評価できる。さらに、リメディアル科目履修者の進級状況の把握や、学生モニター制度を活用して、課題量やクラス数の適正化を行うなど、導入段階でのPDCAサイクルが確立できていることも評価できる。次年度に向けた履修しやすい開講時間帯の設定などについても、引き続き検討していくことが望まれる。

この他、研究成果の情報発信として、学会や研究成果報告イベントに参加した学生数が増加しているとのことであり、理系教育が成果を上げていていると見受けられる。

リメディアル教育は、中長期的な評価が必要であることから、2024年度の重点目標に掲げられている通り、継続的な検証と、科目実施へのフィードバックが望まれる。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。
-------------------------------------	---------------------------------------

【2024年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ ・生命科学部ホームページ https://www.hosei.ac.jp/seimei/shokai/ ・生命機能学科ホームページ https://fb.ws.hosei.ac.jp/wp/diplomap/ ・環境応用化学科ホームページ https://chem.ws.hosei.ac.jp/wp/subject/ ・応用植物科学科ホームページ http://depcps.ws.hosei.ac.jp/wp/diplomap/ 	

基準2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい

【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学評価室ホームページ https://www.hosei.ac.jp/hyoka/committee/ ・法政大学自己点検委員会規程 ・法政大学大学評価委員会規程 ・点検評価企画委員会規程 ・生命科学部質保証委員会議事録 	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい

【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学ディプロマ・ポリシー https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/ ・法政大学カリキュラム・ポリシー https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/gakubu/ 	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい

【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部 教授会議事録（シラバス第三者確認報告等） ・生命科学部 履修の手引き（カリキュラムツリー、キャップ制） ・生命科学部シラバス（ナンバリング） ・生命機能学科 教室会議議事録 ・生命機能学科 学科別ガイダンス資料 ・生命機能学科 卒業論文発表会要旨集 ・生命機能学科 生命機能学セミナー案内 ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き ・生命機能学科 基礎実験Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱシラバスおよび予定表 ・環境応用化学科 教室会議議事録 ・環境応用化学科 学科別ガイダンス資料 	

<ul style="list-style-type: none"> ・環境応用化学科 卒業論文発表会要旨集 ・環境応用科学科履修登録科目（予定）一覧 ・環境応用化学科 応用化学基礎、応用化学セミナーシラバス ・環境応用化学科 基礎応用化学実験、応用化学実験 IA・IB・IIA・IIB テキスト ・応用植物科学科 教員会議議事録 ・応用植物科学科 学科別ガイダンス資料 ・応用植物科学科 卒業論文発表会講演要旨集 ・応用植物科学科 植物医科学基礎実験 I・II、植物生産基礎実習 I・II、植物医科学応用実験 I・II、植物医科学専門実験 I・II、植物医科学インターンシップテキストおよびシラバス
--

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第 22 条の 2（履修科目の登録の上限）に基づき、1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1 授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ I C T を利用した遠隔授業は「2023 年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥ 単位の实质化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい

【根拠資料】

<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部 教授会議議事録 ・生命科学部 履修の手引き ・生命科学部 学年歴・時間割 ・生命科学部シラバス ・リメディアル科目履修推奨者リスト ・生命科学部シラバス第三者確認報告 ・生命機能学科 教室会議議事録 ・生命機能学科 学科別ガイダンス資料 ・生命機能学科 卒業論文発表会要旨集 ・生命機能学科 生命機能学セミナー案内 ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き ・生命機能学科 基礎実験 I・II、基礎演習 I・II シラバスおよび予定表 ・生命機能学科 アンケート調査 ・環境応用化学科 教室会議議事録 ・環境応用化学科 学科別ガイダンス資料 ・環境応用化学科 卒業論文発表会要旨集 ・環境応用科学科履修登録科目（予定）一覧 ・環境応用化学科 応用化学基礎、応用化学セミナーシラバス ・環境応用化学科 基礎応用化学実験、応用化学実験 IA・IB・IIA・IIB テキスト ・環境応用化学科 アンケート調査 ・応用植物科学科 教員会議議事録 ・応用植物科学科 学科別ガイダンス資料

- ・応用植物科学科 卒業論文発表会講演要旨集
- ・応用植物科学科 植物医科学基礎実験 I・II、植物生産基礎実習 I・II、植物医科学応用実験 I・II、植物医科学専門実験 I・II、植物医科学インターンシップテキストおよびシラバス

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい

【根拠資料】

- ・法政大学アセスメント・ポリシー
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/seika_hoshin/
- ・法政大学ディプロマ・ポリシー
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/
- ・生命科学部 教授会議事録
- ・生命科学部 履修の手引き
- ・生命科学部 学年歴・時間割
- ・生命科学部シラバス
- ・生命機能学科 教室会議議事録
- ・生命機能学科 学科別ガイダンス資料
- ・生命機能学科 卒業論文発表会要旨集
- ・生命機能学科 生命機能学セミナー案内
- ・生命機能学科 生命機能学実験の手引き
- ・生命機能学科 基礎実験 I・II、基礎演習 I・II シラバスおよび予定表
- ・生命機能学科 アンケート調査
- ・環境応用化学科 教室会議議事録
- ・環境応用化学科 学科別ガイダンス資料
- ・環境応用化学科 卒業論文発表会要旨集
- ・環境応用科学科履修登録科目（予定）一覧
- ・環境応用化学科 応用化学基礎、応用化学セミナーシラバス
- ・環境応用化学科 基礎応用化学実験、応用化学実験 IA・IB・IIA・IIB テキスト
- ・環境応用化学科 アンケート調査
- ・応用植物科学科 教員会議議事録
- ・応用植物科学科 学科別ガイダンス資料
- ・応用植物科学科 卒業論文発表会講演要旨集
- ・応用植物科学科 植物医科学基礎実験 I・II、植物生産基礎実習 I・II、植物医科学応用実験 I・II、植物医科学専門実験 I・II、植物医科学インターンシップテキストおよびシラバス

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい

【具体的な活用事例】

生命科学部では授業改善アンケート、入学前アンケートおよび卒業生アンケートの結果を教授会資料で共有し、各教員に対しては詳細な結果を法政大学アンケートシステム等にて提供し、各学科にて組織的

に活用するよう周知している。また、教授会にて教育開発支援機構長より学修成果可視化システム (Halo) を紹介していただく機会を設け、各学科での普及・利用促進を図っている。

生命機能学科では、授業改善アンケート、入学前アンケートおよび卒業生アンケートの結果を教室会議で共有し、授業および運営の改善を図っている。また、ガイダンス時に独自に理念・学位授与方針の理解度調査を行い、データを活用し、理解の向上に努めている。

環境応用化学科では、「授業改善アンケート」、「入学前アンケート」、「卒業生アンケート」の集計結果を教室会議にて共有し協議している。特に「授業改善アンケート」は現時点での学生生活の満足度を、「入学前アンケート」は学生生活での期待度を知ることができる重要な指標であり、その後の学生生活（履修状況やGPA成績）との関連性を追跡調査している。

応用植物科学科では、入学直後の新入生に対して受験方式、得意科目等についてアンケートを行い、学生の特性に合わせたきめ細かい指導に活用している。また、入学直後のプレースメントテストの成績を参考に、それぞれの学生に応じて適正科目を紹介するとともに履修を促している。教授会で紹介された学習成果可視化システム (Halo) について、学科内でその機能を理解するとともにその活用を図っている。

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい

【根拠資料】

- ・法政大学生命科学部アドミッション・ポリシー
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/gakubu/
- ・生命科学部ホームページ
<https://www.hosei.ac.jp/seimei/shokai/policy/admission/>
- ・生命機能学科ホームページ
<https://fb.ws.hosei.ac.jp/wp/admisp/>
- ・環境応用化学科ホームページ
<https://chem.ws.hosei.ac.jp/wp/subject/>
- ・応用植物科学科ホームページ
<http://depcps.ws.hosei.ac.jp/wp/admisp/>
- ・法政大学入試情報サイト
<https://nyushi.hosei.ac.jp/>
- ・法政大学入試要項
- ・生命科学部と附属校理科担当教諭の懇談会開催のお知らせ

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度—2023年度学部生名簿 ・収容定員・現員・収容定員超過率（2020—2023年度） https://www.hosei.ac.jp/application/files/8016/8775/7032/2-b-2-1_new1.pdf	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部教授会議事録 ・生命科学部教員審査内規 ・生命科学部推薦委員会議事録 ・生命科学部人事委員会議事録 ・生命科学部カリキュラム https://www.hosei.ac.jp/seimei/shokai/curriculum/ ・法政大学ホームページ https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/basic/ ・生命科学部時間割 ・生命科学部シラバス ・教授会資料（生命科学部シラバス第三者確認） ・法政大学学則 ・法政大学生命科学部教授会規程 ・大学教員就業規則 ・法政大学職員就業規則 ・大学設置基準上の教員と実人数 https://www.hosei.ac.jp/application/files/1716/8775/6454/1-b-4_1.pdf ・生命機能学科教室会議議事録 ・生命機能学科兼任講師懇談会案内 ・生命機能学科ホームページ https://www.hosei.ac.jp/seimei/gakka/seimeikinou/?auth=9abb458a78210eb174f4bdd385bcf54 https://fb.ws.hosei.ac.jp/wp/ ・環境応用化学科教室会議議事録 ・環境応用化学科教室会議授業報告資料 ・環境応用化学科化学系教員懇談会議事録 ・環境応用化学科ホームページ https://chem.ws.hosei.ac.jp/wp/ https://www.hosei.ac.jp/seimei/gakka/kankyou// ・応用植物科学科パンフレット ・応用植物科学科ホームページ http://depcps.ws.hosei.ac.jp/wp/ 	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい

【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 生命科学部教員審査内規 生命科学部教授、准教授および専任講師資格に関する内規 生命科学部教授、准教授および専任講師資格に関するガイドライン 生命科学部推薦委員会議事録 生命科学部人事委員会議事録 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい

【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 生命科学部生のための履修の手引き（ラーニングサポーター、オフィスアワー、学生相談室・障害学生支援室・国際交流支援室の案内） 2023年度4月教授会資料「2023年度生命科学部T・Aの委嘱について」 2023年度4月教授会資料「2023年度成績不振学生の定義について」 2023年度3月教授会資料「2023年度成績不振学生の指導記録」 生命機能学科教室会議議事録 生命機能学科役割分担表 生命機能学科 学科別ガイダンス資料 環境応用化学科教室会議議事録 環境応用化学科教室会議授業報告資料 環境応用化学科応用化学基礎、応用化学セミナーシラバス 環境応用化学科学科別ガイダンス資料 学生・障がい支援室との情報共有および協議（メール履歴） 学科主任による学生との個別面談（メール履歴） 応用植物科学科 教員会議議事録 	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 生命科学部履修の手引き（研究活動の不正行為についての注意喚起） 生命機能学科 教室会議議事録 生命機能学科 学科別ガイダンス資料 環境応用化学科 教室会議議事録 環境応用化学科 学科別ガイダンス資料 環境応用化学科 基礎応用化学実験、応用化学実験Ⅰ・Ⅱ ガイダンス資料 応用植物科学科 教員会議議事録 応用植物科学科 学科別ガイダンス資料、植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ、植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ、植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ、植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ 	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部教授会報告事項資料「広報関係」 ・生命科学部教授会議事録 ・法政科学技術フォーラムホームページ https://www.hosei.ac.jp/scitech/ ・カーボンニュートラル研究セミナーリーフレット https://www.hosei.ac.jp/carbon_neutral/info/article-20240214164246/ ・生命機能学科教室会議議事録 ・7/20・2023年度第1回生命機能セミナー・(第4回グリーン・サステナビリティセミナーと共催) 案内 ・1/30・2023年度第2回生命機能セミナー・(第6回グリーン・サステナビリティセミナーと共催) 案内 ・環境応用化学科教室会議議事録 ・環境応用化学科ホームページ https://chem.ws.hosei.ac.jp/wp/ ・環境応用化学セミナー https://www.hosei.ac.jp/seimei/gakka/kankyou// ・エコプロ2023 https://chem.ws.hosei.ac.jp/wp/第27回環境応用化学セミナー/ ・エコプロ2023 https://www.hosei.ac.jp/info/article-20231204145849/ 応用植物科学科パンフレット、植物医科学基礎実験Ⅰ・Ⅱ、植物生産基礎実習Ⅰ・Ⅱ、植物医科学応用実験Ⅰ・Ⅱ、植物医科学専門実験Ⅰ・Ⅱ、植物医科学インターンシップテキスト、植物医科学センターパンフレットおよびホームページ	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】(参考)</p> <p>全体的には評価基準の各項目について、適切な目標と指標の設定によって、着実、堅実に学部運営を進めている様に見受けられる。</p> <p>特に教育課程・学習成果における初年次教育・高大接続への配慮について、リメディアル科目の開講を含め、手厚い対応が実践されていること、さらにアセスメントポリシーに基づき学習成果を定期的に検証する仕組みなど、は高く評価される。</p> <p>一方で、(今年度の年度目標にも掲げられているが) これらがどれくらいの教育効果を発揮しているのか、定量的な検証をすることがPDCAサイクルへ繋がる第一歩でもあることから、ぜひ効果的な検証を期待したい。</p> <p>同じく教育課程・学習成果において課題として認識されている大学院進学率についても、学科ごとに</p>
--

様々な取り組みが実践されており評価される。

学生支援における学生の能力に応じた補習教育、補充教育、成績不振学生への対応、外国人留学生の修学支援などについても、手厚い対応が実施されており、評価される。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

大学評価委員会の評価結果は執行部で検討し、学科主任を通じて各学科に展開し、さらに教授会で報告し全教員へ周知することで、学部内で共有している。これまでの取り組みが評価されている教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員組織、学生支援、教育研究環境、社会貢献・社会連携について、引き続き適切な対応を進める。また、教養教育と専門教育の連携、特に基礎教育のカリキュラム改革を実施するために、昨年度よりリメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）を新規開講したことから、これらの科目についてどれくらいの教育効果を発揮しているのか、定量的な検証を始める。以上の内容を反映した年度目標を設定した。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
生命科学部では21年度に生命科学部基盤教育カリキュラム委員会を発足し、特に基礎教育のカリキュラム改革について議論を重ね、23年度よりリメディアル科目として入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学の新規開講に至った。開講年度にあたり、履修対象者の決定についてKLACおよび理工学部執行部との調整により「KLACリメディアル科目の履修推奨者選出手順について」を覚書として制定し、プレースメントテストの成績を活用しながらも各学科独自の意見を取り入れる形とするだけでなく、科目担当者と生命・理工両学部の執行部が円滑に連携できる仕組みを整えた。これらの施策により、リメディアル科目の継続履修者は全員、留級することなく進級を果たすなど、専門教育の受講に必要な学力が十分とは言えない新生がスムーズに2年次以降の教育課程に移行できるようになった。一方、対象学生の履修率が低いことや、授業内容や宿題の量が履修対象者の水準と比較して過多であるといった開講後に見出された課題については、科目担当者との議論による見直しや、クラス数の変更、時間割変更によって履修者数の偏りが生じないようにするなどの次年度に向けた対策も講じた。さらにこれら教養教育と専門教育の連携に関しては執行部が必要に応じてKLAC教員も交えた議論を継続的に行っている。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の	S. さらに改善した又は新たに取組んだ	A（概ね従来通り）

主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	である又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S（さらに改善した又は新たに取組んだ）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
生命科学部では学生モニターや学期末の授業アンケートの活用により学生の意見を取り入れて、カリキュラムや各授業科目の詳細な内容、実施方法などについての適切性の確認や見直しの客観性を高めている。特に新規開講したリメディアル科目については、例年行われる他の科目に関するモニタリングとは別枠で時間を設けて重点的に実施した結果、学生モニターからリメディアル科目を非常に高く評価するコメントだけではなく、授業実施内容や宿題の量と受講対象者とのマッチングの難しさや開講時間帯についての問題点に関する指摘が得られ、次年度のリメディアル科目の実施についての効果的な見直しを行うことができた。また、リメディアル科目のような高大接続に関わる科目については、生命科学部執行部および高大連携委員と附属校教員との懇談会などの機会を利用して、外部の視点からの意見を取り入れる工夫も行った。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。		

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。	
年度目標	学部および各学科のホームページのリニューアルや更新により生命科学部の魅力を広く周知する。新入生アンケートや学生モニターを活用し、広報活動の検証を行う。	
達成指標	ホームページのアクセス数および学生モニターの回答	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部ホームページを頻繁に更新し、年間総アクセス数は 52,871 回に達した。新入生アンケートと学生モニターを活用し、広報活動について検証した。
	改善策	ホームページ以外の WEB メディアの活用について検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部ホームページを頻繁に更新しつつ、新入生アンケートと学生モニターを活用し、広報活動について検証したことは評価できる。しかし、アクセス数が 2021 年度をピークとして減少傾向であることが懸念される。
改善のための提言	有力な対策として SNS の活用が考えられる。ただし、学部独自の SNS などの活用を考える場合には、発信・管理する人の負担が大きくなるような持続的な方法を考える必要がある。	
評価基準	内部質保証	
中期目標	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格な PDCA サイクルを行う。	
年度目標	執行部会議および質保証委員会を定期的開催し、内部質保証の PDCA サイクルを実行する。	
達成指標	執行部会議および質保証委員会における内部質保証の検討記録	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	執行部以外のメンバーによる質保証委員会を開催し、内部質保証について検討した。
	改善策	独立した質保証委員会を継続し、内部質保証を維持する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部と学科主任が正式メンバーとして参加する「執行部会議」に加え、それとは独立した質保証委員会による年度末状況報告書等の点検・評価が厳格に実施されている。PDCA サイクルが適切に行われていると評価できる。
改善のための提言	—	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、カリキュラムを見直し、リメディアル教育など新しい科目を導入することで、理系基盤教育を充実させる。	

年度目標	新設されたリメディアル科目の教育効果の検証に着手する。	
達成指標	執行部会議および生命科学部基礎教育カリキュラム委員会におけるリメディアル科目の検討記録	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学生モニターとの面談、執行部会議および生命科学部基礎教育カリキュラム委員会において、新設されたリメディアル科目の教育効果について検討した。
	改善策	引き続き、生命科学部基礎教育カリキュラム委員会でリメディアル科目の教育効果を検証する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新設されたリメディアル科目の教育効果について、学生モニターとの面談も踏まえて、執行部会議および生命科学部基礎教育カリキュラム委員会において検討したことは評価できる。
	改善のための提言	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	対面とオンライン両方の利点を組み合わせた新しい教育・学習形態を確立する。	
年度目標	新型コロナウイルス共存下の対面授業におけるオンライン教材の活用法を検討する。	
達成指標	執行部会議および教室会議におけるオンライン教材の検討記録	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	執行部会議や教室会議において適宜、授業形態について検討した。
	改善策	オンデマンド教材の活用事例について情報共有する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新型コロナウイルス共存下の対面授業におけるオンライン教材の活用法を検討したことは評価できる。
	改善のための提言	授業公開とリンクさせて、具体的な事例を共有できるとよいのではないかな。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。	
年度目標	学外行事（学会・研究会・イベント等）への学生の参加を促す。	
達成指標	学外行事（学会・研究会・イベント等）への学生の参加回数	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	学術集会や研究成果報告イベントに参加した学生数は延べ84名に達し、研究成果の発信が行われた。
	改善策	引き続き、学生に学術集会や研究成果報告イベントへの参加を促し、総合的学習の機会を与える。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究活動の成果を学会・研究会等の学術集会で対外的に発表することを促していることは、理系学部学生の教育として重要である。その数を継続的にモニターしている点は評価できる。今年度参加者が大幅に増加したことは素晴らしい。
	改善のための提言	学部教員が関わる学会・研究会の本学（市ヶ谷キャンパスを含む）での開催も、ある程度の頻度でおこなわれている。それについても記録しておくともよいのではないかな。学会・研究会開催は学外への発信となるとともに、学生への刺激ともなるはずである。
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	広報イベントを通じた受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。	

年度目標	アンケートを実施し、広報活動の効果を検証する。	
達成指標	執行部会議における広報活動に関するアンケートの分析記録	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	新入生アンケートを活用し、広報活動の効果を検証した。
	改善策	広報活動の効率化に向け、関係部署との連携について検討を始める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新入生アンケートを活用し、広報活動の効果を検証したことは評価できる。
	改善のための提言	—
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	①生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。	
年度目標	教養・専門教育連携委員会を開催し、教養科目担当教員と専門科目担当教員の意見交換の場を継続・強化する。	
達成指標	教養・専門教育連携委員会の活動記録	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	教養・専門教育連携委員会を開催し、学生モニターの結果を検討するとともに、教養科目の履修状況等について意見交換を行った。
	改善策	引き続き、教養・専門科目連携委員会を開催し、教員間の意見交換の場を設ける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教養・専門教育連携委員会を開催し、教養教育と専門教育の連携に関する学生モニターの結果を検討するとともに、教養科目の履修状況等の情報を共有し、意見交換したことは評価できる。
	改善のための提言	3・4年生あるいは大学院生が（授業や研究を通して視野がひろがった後に）他分野を学び直せるようなしくみの構築もできるとよいのではないか。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	②充実した教職課程教育を遂行できる体制を整える。	
年度目標	教職課程連絡会議において教職課程教育の充実に向けた検討に着手する	
達成指標	教職課程連絡会議の活動記録	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教職課程連絡会議を開催し、教職課程教育について意見交換を行った。
	改善策	教職課程連絡会議の検討内容を情報共有する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教職課程連絡会議を開催し、教職課程運用上の問題について議論し、改善を図っていることは評価できる。
	改善のための提言	教員となった卒業生が生徒を連れて研究室見学に来た事例があったが、そのような際に教員志望の在学生と交流を図るなど、卒業生との連携についても検討していただきたい。
評価基準	学生支援	
中期目標	留学生に対する修学支援制度を確立する。	
年度目標	留学生に向けた修学支援の呼びかけや教員とコミュニケーションをとるための施策を検討する。	
達成指標	執行部会議における留学生支援の検討記録 小金井グローバル担当の記録	
年	教授会執行部による点検・評価	

度 末 報 告	自己評価	S
	理由	執行部が、留学生と日常的に接している小金井グローバル担当事務職員と意見交換会を実施し、留学生の実態を把握、支援策を検討し、小金井留学生ガイダンスで学修における助言を行った。
	改善策	引き続き、留学生の実態調査を行い、必要とされる支援策について検討を始める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部が小金井グローバル担当事務職員と意見交換会を実施し、小金井留学生ガイダンスで学修について助言するなど、留学生支援活動を積極的に行っていることは評価できる。
	改善のための提言	－
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。
年度目標		一般公開セミナーを開催し、研究・教育活動を発信する。ホームページでの広報活動を促進する。
達成指標		セミナーの開催回数およびホームページで公開された研究活動の紹介回数
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	各学科が主催・共催するセミナーを計12回開催し、研究・教育活動の発信に努めた。
	改善策	引き続き、セミナーを積極的に開催する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各学科が積極的にセミナーを主催・共催していることは評価できる。
改善のための提言	法政科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスなどへの参加も「学外へ向けた研究・教育活動の紹介」にあたるので、年度目標に組み込んだ方がよいと思われる。また、ふさわしいものがあれば、外部機関との共催を受け入れ、教員の余力を考えながら本学（市ヶ谷キャンパスを含む）での開催を検討するとよいのではないかと。	
【重点目標】 新規開講したリメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）の教育効果の検証に着手する		
【目標を達成するための施策等】 担当教員、執行部、生命科学部基礎教育カリキュラム委員会が協働し、新設されたリメディアル科目の履修状況を調査する。また、履修前のプレースメントテストと履修後のアチーブメントテストの成績を比較する。		
【年度目標達成状況総括】 理念・目的について、学部ホームページを頻繁に更新し、生命科学部の魅力について広く周知を図った。内部質保証について、執行部以外のメンバーによる質保証委員会を開催した。教育課程・学習成果について、学生モニター制度を活用し、新設されたリメディアル科目の教育効果について検討した。また、多くの学生が学外行事に参加し、研究成果の発信が行われた。学生の受け入れについて、新入生アンケートを活用し、広報活動の効果を検証した。教員・教員組織について、教養・専門教育連携委員会において、教養科目の履修状況等について意見交換を行った。学生支援について、留学生の実態を把握し、支援策を検討した。社会貢献・社会連携について、セミナーを開催し、研究・教育活動の発信に努めた。特に、執行部と教養科目担当教員が連携し、新設されたリメディアル科目の履修者の決定、成績調査、モニタリングを実施し、重点目標を十分に達成した。		

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	生命科学部では、自然科学の知識を基盤として多様な生命科学を学ぶことができることを、在学生および受験生と保護者などに対して周知する。

年度目標	生命科学部の魅力を広く周知するために、学部および各学科のホームページの更新を定期的に行うとともに学生モニターを活用し、生命科学部の理念や目的が周知されているかを検証する。
達成指標	ホームページの更新日時をモニターし、教授会等で報告するとともに、学生モニターの回答結果を教授会で共有し、フィードバックが必要な回答については学生に検討結果を周知する。
評価基準	内部質保証
中期目標	自己点検作業における執行部会議と質保証委員会の役割をより明確に分けた現在の体制を維持し、厳格なPDCAサイクルを行う。
年度目標	内部質保証のPDCAサイクルの継続を念頭に、執行部会議および独立した質保証委員会を定期的開催する。
達成指標	執行部会議における定期的な内部質保証の検討に加えて、独立した質保証委員会を年4回開催して検討を行う。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	教養科目と専門科目の連携を強化すると同時に、カリキュラムを見直し、リメディアル教育など新しい科目を導入することで、理系基盤教育を充実させる。
年度目標	23年度に新規開講したリメディアル科目の教育効果の定量的な検証を開始する。
達成指標	執行部会議および生命科学部基礎教育カリキュラム委員会においてリメディアル科目の教育効果を検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	対面とオンライン両方の利点を組み合わせた新しい教育・学習形態を確立する。
年度目標	対面授業を基本とする教育におけるオンライン教材の活用法を検討する。
達成指標	執行部会議および教室会議においてオンライン教材の検討を行うとともに授業公開の実施回数と授業形態の状況調査を実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習の総合的な結果である研究成果を対外的に発表することを促進する。
年度目標	小金井祭、オープンキャンパス、科学技術フォーラムなども活用しつつ、学外行事(学会・研究会・イベント等)への学生の参加を促す。
達成指標	学外行事への学生の参加回数を調査する。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	広報イベントを通じた受入方針の周知について、効率のよい方法を確立する。
年度目標	アンケートを実施し、広報活動の効果を検証する。
達成指標	執行部会議において広報活動に関するアンケートの分析を行う。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	①生命科学部にふさわしい教養教育を行う体制を整える。
年度目標	教養・専門教育連携委員会を開催し、教養科目担当教員と専門科目担当教員の意見交換の場を継続・強化する。
達成指標	教養・専門教育連携委員会の活動内容を教授会等で共有する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	②充実した教職課程教育を遂行できる体制を整える。
年度目標	教員不足などの社会情勢を踏まえ、教職課程教育の充実について教職課程連絡会議で検討を行うとともに、卒業生の中高教員との連携も図る。
達成指標	教職課程連絡会議の活動記録および、卒業生教員との交流回数を教授会等で共有する。
評価基準	学生支援
中期目標	留学生に対する修学支援制度を確立する。
年度目標	留学生が必要としている支援について、在籍する留学生から直接・間接的に情報収集を行い、教員と留学生がコミュニケーションをとるための施策を検討する。

達成指標	在籍する留学生や留学生窓口担当者から収集した情報および、教室会議・執行部会議における留学生支援の検討記録を教授会等で共有する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学外へ向けて研究・教育活動の紹介を促進する。
年度目標	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスなどにおいて、研究・教育活動を発信する。ホームページでの広報活動を促進する。
達成指標	科学技術フォーラム、小金井祭、オープンキャンパスなどにおける発表回数およびホームページで公開された研究活動の紹介回数を調査する。
<p>【重点目標】 教育課程における初年次教育・高大接続への配慮施策として23年度に新規開講したリメディアル科目の教育効果の定量的な検証を開始し、PDCAサイクルをスタートする。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 23年度に新規開講したリメディアル科目（入門数学、入門物理学、入門化学、入門生物学）の教育効果の定量的に検証するため、履修状況、履修前後のプレースメントテスト成績、および履修者の進級状況、2年目以降の成績について数値データを集計し評価を行う。</p>	